



電化でムリをしないエコ生活

池田 修 日本電熱協会 理事

平素から、弊社事業運営に対しまして、格別のご理解・ご協力を賜り、この場をお借りし厚くお礼申し上げます。

皆さまご存じのとおり、地球温暖化を抑止するために採択された京都議定書では、2008年～2012年の間に温室効果ガスを1990年比で6%削減することが義務づけられております。弊社では、マイナス6%実現に向けた地球温暖化防止国民運動「チーム・マイナス6%」に参加し、その活動の一環として、夏場には「クールビズ」を実施しました。ノーネクタイと上着を脱げば体感温度が2℃下がることから、空調温度を28℃に上げてでも快適なオフィス環境を維持できました。この他にも、従前どおり昼休みや退社時の消灯はもちろんのこと、事務用品についてもエコ製品を選んで購入するなどの活動を実施しております。

また、今年の夏は異常渇水となり、早明浦ダムの貯水率が0%になる非常事態を経験し各家庭や企業では、節水に努めました。結果的に全面的に断水になることはありませんでしたが、資源の大切さを身をもって体験いたしました。

弊社の調査によると、四国での2005年のエアコン世帯普及率は97%、同台数普及率は279%で、今や各部屋1台の時代に入ろうとしております。1990年当時は一家に1台の時代でしたから私たちの生活が様変わりしてきていることがわかります。

他にも、より快適な生活を求め、様々な電化製品が家庭の中に普及した結果、CO₂排出量は約3割以上増加しているのです。これでは節約だけでは達成できないのは明らかでしょう。

一方、技術の分野では大変な進歩がありました。高い熱効率で加熱できるIHクッキングヒーターや高効率の空調機の出現、家庭で消費するエネルギーの約3割を占める給湯についてもエコキュートの開発により、従来の1/3のエネルギーで賄うことができるようになりました。しかも、これらは導入するだけでCO₂削減に繋がるのです。

確かに、節約することは大切ですが、昭和時代の生活に戻ることはできません。しかし、これらの高効率機器を取り入れることにより、生活のレベルを落とさずにCO₂の削減が可能となるのです。

更に、最近では高断熱・高气密の建物が増えており、このような建物には、燃焼を伴わない電化が一番だと考えております。しかも、高断熱・高气密の建物に高効率機器を導入することで更に地球環境に優しい生活が可能になるのです。

今後は、我々電力会社とメーカーが互いに協力し合い、電化が地球環境改善の切り札と成り得るよう努力していきたいと思っています。

今後とも会員の皆さまのご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(いけだ おさむ) 四国電力(株) 取締役 営業推進本部 副本部長 営業部長